

平成15年11月12日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予察特殊報第3号を送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成15年11月12日
高知県病害虫防除所

1. 病害虫名 *Iris yellow spot virus* (IYSV)

2. 発生作物 ニラ、トルコギキョウ

3. 発生状況等

- (1)平成15年8月に香美郡土佐山田町のニラ(発生面積:3ha)で、葉身にえそ条斑を呈する病害が発生した。
(2)また同年10月に、香美郡野市町のトルコギキョウ(発生面積:0.5ha)で葉にえそ斑点やえそ輪紋、茎にえそ条斑を呈する病害が発生した。
(3)ともに高知県農業技術センターで電子顕微鏡観察およびRT-PCRにより同定を行った結果、*Iris yellow spot virus* (IYSV)による病害であった。なお本ウイルスのニラでの発生は初めてであり、トルコギキョウでは西日本を中心に6県で発生が確認されている。

4. 病徴と被害

- (1)ニラでは初期には葉身に長さ5mmほどの色が抜ける条斑が発生し、後にははっきりとした淡褐色のえそ条斑となる。さらに症状が進むとこれらは融合して不鮮明なえそ病斑となる。葉がねじれる場合もある(図1、2)。
(2)トルコギキョウでは葉にはえそ輪紋、えそ斑点を生じ、茎にはえそ条斑を生じるが、品種により症状が異なる(図3、4)。

5. 病原ウイルスの諸性質および伝染方法

- (1)Tospovirus属に属する、直径60~100nmの擬球状のウイルスである。
(2)国内ではトルコギキョウの他、アリストロメリア、タマネギ等での発生が確認されている。
(3)海外での報告によると汁液接種で、ダッチアイリス、リーキ等に全身感染することが確認されている。
(3)ネギアザミウマによって媒介され、永続的に伝搬すると思われる。ミカンキイロアザミウマ等他のアザミウマによる伝搬は確認されていない。
(4)汁液伝染、土壌伝染については不明であるが、可能性は低い。種子伝染はしない。

6. 防除対策

本病害の発生が疑われる場合は以下の防除対策を徹底する。

- (1)施設開口部に防虫ネットを張り、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。
(2)薬剤によるネギアザミウマの防除を徹底し、また増殖源となるほ場内外の雑草の防除を行う。
(3)発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出すとともに、埋没等の処分を行う。
(4)栽培終了後は蒸し込み処理等により、施設内のネギアザミウマを死滅させる。



図1 ニラにおける病徴



図2 ニラにおける病徴(拡大)



図3 トルコギキョウにおける生長点のえそ症状



図4 トルコギキョウにおける大型の病斑